

林大の風

第25号 高知県立林業大学校

第2回インターンシップ

10月11日から22日の2週間の日程で、令和3年度2回目のインターンシップを実施しました。

前回の第1回インターンシップでは、新型コロナウイルス感染症が拡大し、1週間に短縮したため、今年度の研修生にとって2週間のインターンシップは初めての経験でした。

研修生からは、2週間連続で受け入れて頂いたことにより、受け入れ先の班員と円滑にコミュニケーションを取れるようになったという意見や、造林班も林産班も経験することが出来て非常に勉強になったという意見がありました。

社会経験の少ない研修生にとって、初めてお世話になる事業体の方々と円滑なコミュニケーションを取れるようになるには、やはり2週間という期間が必要になるのかなと感じたところでした。

一方で、1林業事業体を1週間とし、2週間で2つの事業体を体験することによって、様々な事業体を見て回りたいという意見も出たことから、インターンシップのあり方についても考えさせられました。

2週間のインターンシップを行うことにより、中目となる土日を各研修先で過ごす研修生も多くなります。

地域の住民の皆様方とふれあい、地の物を食し、風土や習慣を感じることによって、就職した後、その地で暮らすイメージを持ってもらおうというのも、インターンシップの狙いの一つです。

腰を据え、未永く地域を愛し愛される林業従事

者となるために、様々な視点をもってインターンシップに臨んで欲しいと思っております。

こぼれごと

今回のインターンシップの訪問の際によく聞いたのは、造林の従事者が欲しいという意見でした。ウッドショックの影響が少なからず本県にも及んでおり、材価の上昇に伴う皆伐の発注量が増えているとのこと。必然的に皆伐後の地拵え、植栽、下刈りなどの造林業務が増えてきており、年度当初の予定どおり林産に人を割けない状況となっている事業体もあると聞きました。

本校でも造林施業については、座学及び地拵え、ネット張り、植栽、下刈りなどを実習でひととおり教えています。チェーンソーによる伐倒技術やバックホウによる作業道開設実習に割く時間と比べると圧倒的に少ないのが現状です。

現場のニーズに合った林業従事者を輩出するために、カリキュラムの編成を行う際の参考になる意見を聞けるインターンシップは、本校職員にとっても貴重な機会となっております。

令和3年度第2回インターンシップ先一覧

	事業体名	受入人数
森林組合	高知東部森林組合	1
	物部森林組合	1
	土佐町森林組合	1
	高知市森林組合	1
	須崎地区森林組合	4
	梶原町森林組合	2
	西土佐村森林組合	1
	中村市森林組合	3
林業事業体	土佐清水市森林組合	2
	清水産業(株)四国事業所	1
	西垣林業フォレスト(株)	2
	高知事務所	2
	溝渕林業(株)	2
	(株)とされいほく	4
	(株)あすなる四国支社	3
	(株)高知林業	1
	(株)高知官材	2
	(有)まんさく	1
	(合)フォレストアーツ	2
	仁淀川林産協同組合	1
木造建築関係	(株)遠山産業	1
	北添建築研究室	1
	(株)高知中央ホーム	1
	新進建設(株)	1
	(株)ONE'S STYLE NISHIKAWA	1
	(有)艸建築工房	1
	Atelier tomato	1
	(株)THINK 建築設計事務所	1
(有)藤川工務店	1	



▶物部森林組合にて広葉樹は初めて伐りました。



▶土佐清水市森林組合にて植栽と個体保護ネットの設置

義講特別長校限

11月8日(月)に、限研吾校長の特別講義をザクラウンパレス新阪急高知にて開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、参加者を建築を学ぶ学生に限定しての実施です。

第1部は、限校長と(株)竹中工務店参与の松崎裕之さん、そして高知県梶原町の吉田尚人町長とのトークセッションです。まず最初に自己紹介もかねて、松崎さんから竹中工務店の木造建築への取組み、そして、吉田町長から梶原町について、紹介していただきました。

その後のトークセッションでは、「SDGs・脱炭素×国産材普及・利用促進」、「アフターコロナと住環境」、「これからの林業や建築に携わる人材に求められること」について、お話ししていただきました。

第2部は、建築を学ぶ本校研修生や国際デザインインビュティカレッジ、大阪市立大学の学生が事前課題「道の駅」の設計について、プレゼンを行い限校長とゲストの方から講評をいただきました。

7チームそれぞれ個性的な力作揃いで、作品からは相当な努力をしたことがうかがわれました。

限校長から「プレゼン資料は一瞬が勝負、伝えたいことが一目で分かるような作り方が肝要」「道の駅は駐車場が主役になりがちなので、建物が栄えるようなパースの構図が大事」といったコメントをいただきました。

各チームごとに記念撮影にも応じていただき、参加された学生の皆さんにとって、貴重な体験、そして良い思い出になったのではないのでしょうか。

